

### 3 新 R&D ビジョンを実現する戦略テーマ 2

## 本人性、コンテンツの信頼性を実現

AI技術の発展により、容易に高度なフェイク動画・画像や音声を生成することが可能となり、悪意のあるユーザーによるなりすましや詐欺、フェイクニュースによる被害の増加が懸念される。株式会社NTTドコモ（以下、ドコモ）は、発信者や流通するデータの信頼性を確認・担保することで、偽情報や偽コンテンツによるデジタル空間の脅威を取り除き、安心・安全な情報流通社会の実現をめざす。

### はじめに

近年、AI技術の発展やインターネット上の情報流通量の増大により、ディープフェイクの生成・拡散やそれによる被害が拡大している。インターネット上で確認されたフェイク動画件数は急増しており、またフェイク画像・音声をを用いた詐欺は世界各国で発生するなど、高度化した偽情報や偽コンテンツによりデジタル空間のコミュニケーションや情報流通の安心・安全が脅かされている状況となっている。

AI技術の発展により、偽情報や偽コンテンツの生成は今後、より一層容易となり、悪意のあるユーザーによるなりすましや詐欺、フェイクニュースの拡散は増加していくと想定される。このような社会においては、ニュースやSNSに溢れるコンテンツ情報の真偽は担保されず、発信者や拡散者の信頼もまた難しい。電話やメッセージにおいても、通信相手がAIで模倣されると、本人であることの判断が困難になる。

2023年8月に実施された調査<sup>(※)</sup>によると、国内ユーザーの67.3%が情報検索時に偽情報を警戒し、

34.1%がSNSでのフェイクニュースによる混乱を経験していることから、フェイク情報に対する意識や懸念も高まっている現状が窺える。

### 安心・安全な情報流通社会 実現に向けた技術開発

これらの課題に対し、ドコモでは、情報やユーザーの信頼性に関わる技術開発を進めていく。

例えばフェイクニュース対策では、ディープフェイクやAI生成テキストの検出技術が多数開発されている一方で、それらを騙す技術も日々進化しており、完全な検出は難しいのが現状である。その対策の一つとして、ユーザーによる真実性の判断を支援するツールの構築が有用であると考えている。また、フェイクニュースの素材となるデジタルデータについては、データの生成と流通の際に透明性と真実性を担保できる技術を適用することが効果的であると考え、流通の過程においてデータの生成情報の検証や流通時の改ざんがないことを検証可能とする技術を検討している。

さらに、発信者や拡散者が信頼できない課題への対処として、信頼性の確認に必要な情報を集約し、



株式会社NTTドコモ  
R&D イノベーション本部  
デバイス開発部  
部長 金田 利夫氏

各サービスに合わせてユーザーに信頼度のスコアを提供することで、ユーザーの客観的な判断を可能とすることなどが挙げられる。電話やメッセージにおけるなりすましに対しては、通信相手の本人性を確認し、通信の受け手が、相手が本当に本人であるかを判断できるようになることをめざしている。

### おわりに

ドコモはここに例として挙げた技術などを通じ、デジタル空間におけるコミュニケーションに潜む脅威を取り除き、人々や企業の活躍の場としてのデジタル空間の価値を高め、安心・安全な情報流通社会の実現をめざしていく。

(※) 出所：電通モバイルプロジェクト調査